

財団法人富山県文化振興財団では、本県在住・出身の音楽家との連携・協力により、県民の皆様方に優れた音楽芸術に触れていただくため、音楽家の発掘と紹介を目的に、平成6年度から富山県高岡文化ホールにおいて「ズームアップ! 郷土の音楽家たちコンサート」を開催しております。

平成19年度からは、音楽芸術の素晴らしさに接する機会をさらに拡大する趣旨から、より広い地域の方にコンサートを提供するため、県内の県立ホールの連携により開催しております。

今回は、平成19年度に開催したベートーヴェン、平成21年度のチャイコフスキーに続く第3弾としてブラームスを取り上げ、併せて、演奏機会の少ない邦楽オーケストラの名曲を紹介するとともに、和と洋楽器のオーケストラによる当財団の委嘱作品を発表します。様々な角度からオーケストラの魅力に触れていただき、日本の伝統楽器の素晴らしさや富山で生きる私たちの幸せを感じていただければ幸いです。

Profile



©Walter Garosi

【高岡・新川公演】
三ツ橋敬子
Keiko Mitsuhashi
(指揮)

東京都生まれ。

東京藝術大学院音楽研究科指揮専攻を修了。ウィーン国立音楽大学とキジアーナ音楽院に留学。これまでに小澤征爾、小林研一郎、G. ジェルメッティ、E. アツツェル、H=M. シュナイト、M. ストリンガー、湯浅勇治、松尾葉子、高階正光の各氏に師事。2008年第10回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールにて日本人として、女性として初めて最年少優勝を果たした。これまでに、ジュゼッペ・ヴェルディ響、ハイドンオーケストラ、パトヴァ響、都響、東京フィル、シティ・フィル、日フィル、群響、新日フィル、日本センチュリー、仙台フィル、札幌などへ客演。2010年に、小澤征爾指揮、サイトウ・キネン・オーケストラのアメリカ、カーネギーホール公演で、ブリテン作曲「戦争レクイエム」で児童合唱を指揮した。また、Newsweek Japan誌で「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた。

2010年、アルトゥーロ・トスカニーニ国際指揮者コンクールで、準優勝と合わせて聴衆賞を受賞。現在、イタリア在住。



【新川公演】

田村拓男
Takuo Tamura
(指揮)

1964年、日本音楽集団の創立に打楽器奏者として参加、後に指揮者として活躍、年4回の定期演奏会を中心に全国での幅広い公演に参加。日本音楽集団の海外公演ゲヴァント・ハウスオケとの共演(三木稔作曲「急の曲」～1981年)、プラハの春音楽祭(2001年)ほか、これまで30次、世界35カ国、のべ154都市で252回の演奏会に参加。斉藤秀雄(指揮)、山田一雄(指揮)、石桁真礼生(作曲)、藤倉華鳳(長唄囃子)に師事。東京芸術大学講師(1989～91年)、東フィルに在籍(1958～60年)。日本音楽集団として文化庁芸術祭大賞(1970年)、音楽之友社賞・レミー・マタン音楽賞(1978年)、モービル音楽賞(1990年)等を受賞。現在日本音楽集団代表、NPO 邦楽指導者ネットワーク21の代表理事、島根邦楽集団特別顧問。



【新川公演】
鈴木聡
Satoshi Suzuki
(作曲)

日本作曲家協議会および日本現代音楽協会(国際現代音楽協会日本支部)所属。作曲家集団グループ樹同人。中央大学及び日本音楽学校卒業。作曲を福島雄次郎氏に師事。合唱指揮法をオットカー・プロハッカ氏(ウィーン国立音大)に師事。東京都出身。文化庁芸術文化活動支援員。

主な作品に「EssayⅢ～コントラバスソロのための」(第1回国際コントラバスコンクール課題曲、ISCM世界音楽祭出品曲)、「昨～フルートとピアノのための」(Fl.マリオ・カローリとPf.シルヴァ・コスタンツォにより2000年NHK放送初演、文化庁より楽譜出版)、フルートと女声合唱のための「谷川俊太郎の詩による三つの歌」(CD刊)、混声合唱「兵士の告白」(CD刊)、ピアノ曲「詩的な情景」(音楽の友社刊)ほか管弦楽曲、室内楽曲など。2011年8月に3月11日の大震災の想いを弦楽四重奏曲「無の時」(4楽章)にまとめ発表。



【高岡公演】
戸島園恵
Sonoe Toshima

(ピアノ)

富山市出身。5歳よりピアノの指導を受ける。桐朋学園大学子供のための音楽教室、呉羽高等学校音楽コース、桐朋学園大学音楽学部演奏学科を経てドイツへ渡る。2010年、ドイツマンハイム音楽大学を最優秀の成績で卒業。

富山県青少年音楽コンクール、小学生、中学生の部で、それぞれ最優秀賞受賞。第56回全日本音楽コンクール大阪大会「高校の部」第2位、第24回富山県新人演奏会にて、県知事賞並びに北日本新聞音楽奨励賞受賞。桐朋学園大学卒業演奏会に出演。マンハイム、ルートヴィクスハーフにて、ソロリサイタルを行う。2011年11月ドイツの室内楽オーケストラ Kurpfälzischen Kammerorchesterとモーツァルトのピアノ協奏曲で共演。これまでに、大坪亮子、川島伸達、ローベルト・ベンツ各氏に師事。現在、マンハイム音楽大学大学院に在籍し、また積極的に演奏活動も行っている。



【新川公演】
渋谷優花
Yuka Shibuya

(ヴァイオリン)

6歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を卒業、桐朋学園大学院大学を修了。2008年、アジア・フィル・オーケストラ・アカデミー(韓国)、オーバードホールオペラ「ラ・ボエム」(富山)に参加。2008年、2009年、別府アルゲリッチ音楽祭に参加。2007～2009年、LIVING ART in OHYAMA(主催・富山市)にてコンサートを開催。2009年、富山県新人演奏会に出演し、北日本新聞音楽奨励賞を受賞。2010年、ザルツブルグ・モーツァルトウム音楽院夏期国際アカデミーにてリアナ・イサーカーゼ氏のマスタークラスを修了し、指導教授推薦によるアカデミーコンサートに出演。2010年、秋山和慶氏指揮/桐朋アカデミー・オーケストラと、チャイコフスキー作曲《ヴァイオリン協奏曲》を共演。これまでにヴァイオリンを小澤真琴、上島淳子、久保良治、藤原浜雄の各氏に、室内楽を青木十良、名倉淑子、岩崎流、野島稔、若林顕、新実徳英の各氏に師事。現在、桐朋オーケストラ・アカデミー研修過程に在籍、桐朋学園大学付属「子どものための音楽教室」ヴァイオリン科非常勤講師。富山市在住。



～あなたの夢、音にのせて～

【高岡・新川公演】 **日本センチュリー交響楽団** (管弦楽)
Japan Century Symphony Orchestra

日本センチュリー交響楽団(旧・大阪センチュリー交響楽団)は、1989年に活動を開始した。初代常任指揮者はウリエル・セガル(現名誉指揮者)が、1997年4月からは高関健が常任指揮者を務めた。2003年4月から首席指揮者に小泉和裕を迎えとともに定期演奏会は2005年4月に100回を数えた。2008年4月からは小泉和裕を音楽監督に、沼尻竜典を首席客演指揮者に迎え、創立20周年となる2009年度には両指揮者による記念公演を行った。2011年4月、名称を日本センチュリー交響楽団に変更し新たなスタートを切った。創立以来、アンサンブルの緻密さ、古典から現代作品に至るまで柔軟かつ高い演奏能力に評価を得てきた。大阪での定期演奏会をはじめ、近年ではさまざまな地域でも特別演奏会を行っている。その他にも「タッチ・ジ・オーケストラ(青少年のためのオーケストラ体感コンサート)」、特別支援学校コンサート、病院での室内楽コンサートなどセンチュリーならではの多彩な活動、また、センチュリー・ユースオーケストラの運営、大学からのインターンシップ生の受け入れや中学生の職業体験授業など教育プログラムにも力を入れている。「優れた演奏により地域の力を発信する」「オーケストラによる感動と癒しを提供する」「優れた才能の発掘を次世代の育成に寄与する」「国際相互理解や平和に積極的に貢献する」の4つの理念をもとに、演奏を通して多くの人びとの心に明るい夢が広がることを願い、新しい時代のオーケストラとして発展を目指している。



【新川公演】 **日本音楽集団** (邦楽)

私たちの伝統楽器で現代に生きる私たちの音楽を作ろう—こうした旗印のもとに、流派をこえて集まった演奏家と作曲家14人によって日本音楽集団は1964年に結成された。現在では60名をこえる団員が所属している。年間4回の定期演奏会を中心に、全国各地でのコンサート、学校公演を含むさまざまな分野での演奏活動を繰り広げている。1999年には東京都より特定非営利活動法人の認証を受けた。海外公演もこれまでに30回行い、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、韓国、東南アジア、オセアニア、中近東、南米等34カ国、のべ154都市で252回の演奏会を開催した。1981年にはゲヴァントハウス・オーケストラ200年祭を記念して三木稔が作品委嘱を受け、日本伝統楽器群と西洋オーケストラのための交響曲「急の曲」(Symphony for Two Worlds)を同オーケストラ(クルト・マズア指揮)と共にライブツィヒで世界初演した。この曲はさまざまなオーケストラと共演しており、1994年にはニューヨーク・フィルとの共演も行った。また、北京中央民族楽団(中国)や中央国楽管絃楽団(韓国)とも共演し、特に1996年には韓国国立中央劇場の招聘により「日韓ワールドカップ共催記念演奏会」に出演、2001年は「ブラハの春」音楽祭に出演した。この他アイザック・スターンやヨーヨー・マなどのソリストたちとも共演した。2004年に40周年を迎え、日本音楽集団40周年記念作曲コンクール(世界13ヶ国から46作品の応募)を行った。芸術祭大賞及び奨励賞(文化庁)、音楽之友社賞、松尾芸能賞、モービル音楽賞などを受賞している。